

広報

やまと

5月号

2011 No.215

特集

新設大和中学校開校

大和村立大和中学校



新設大和村立大和中学校の生徒と職員のみなさん

もくじ

- 02-07 特集：新設大和中学校開校
- 08-13 特集：平成23年度施政方針
- 14-17 ニュース：スモモ収穫、ほか
- 18-18 お知らせ：新採職員紹介、ほか
- 19-20 連載：いきむんマンディ、ほか

心豊かに たくましく

第49回卒業生一同 平成9年3月18日

特集

新設大和中学校開校



大和村内五つの中学校が統合して誕生した「新設大和中学校」（西村禎文校長）の開校式が4月5日行われた。式典には2、3年生29名と教職員、来賓、地域住民ら約200人が出席し、伊集院村長が大和中学校の開校を告辞。新しい校旗が伊集院村長から西村校長に手渡され、校歌作曲者のはまだゆかりさんが新校歌を熱唱し大和中の門出を祝った。

村内の中学校統合問題については、平成18年に学校規模見直内部検討会の設置を機に議論が本格化。翌平成19年には学校統合審議会から村へ意見書が提出された。

村は意見の集約を図るため、各集落に出向き幾度となく懇談会を開催。「各小中学校は存続させる」、「位置を現大和中とし新校舎の建設は行わない」、「通学にはスクールバスを運行する」など骨子案を定め、平成21年6月に村議会において大和村立学校設置条例の改正案が可決され統合が正式に決定された。

統合に至った大きな理由は急激な人口流出や少子化による生徒数の減少だ。昭和40年には村内5校の中学校に328名の生徒が在籍（村勢要覧から）したが、今年度はわずか46名にすぎず、今後も減少傾向は続く予想される。

小規模校においては生徒一人一人に丁寧な指導ができるほか、児童生徒が一体となった親密な人間関係を醸成できるなどの利点がある一方、クラスの小規模化や複式化、専門

「子ども達のための統合を。」

教員の不足、競争機会の減少、部活動の制限など様々な課題を抱えてきた。

また、既存の小中学校は地域コミュニティの中核として重要な役割を果たしており、地元住民の中には中学校の閉校に強い危機感を感じた住民も少なくなかっただろう。

それでも、統合へ前向きな意見が大勢を占めたのは、「教育環境の向上による、子ども達のための統合を」という強い願いが、「地域の灯火が消えるかも知れない」という不安を上回ったのではないか。

この様な教育環境や社会条件、地域の伝統をふまえ、子ども達により良い教育環境を提供することを目的として大和中学校は開校した。「地域に開かれた学校」として村民に身近な学校運営を期待すると共に、「子どもは地域の宝」の心を持ち村民全員で生徒を見守ってほしい。

統合までの経緯を振り返るとともに、生徒や関係者の思い、また学校や地域の新たな課題を探り、大和中学校の開校を特集します。

新たな伝統と校風

大和村教育長 泉 有智



大和村立大和中学校の開校式に当たり、大和村教育委員会を代表して、一言ごあいさつを申し上げます。

本校は、地域の皆様や関係者の方々の教育にかける熱意と子どもたちに輝く未来を与えたいという、多くの方々の願いのもと、村内の大和中学校、大和中学校、戸田中学校、名音中学校、今里中学校の5校を統合し、本日、ここに、新たな一歩を踏み出しました。

これまで、大和中学校の開校に当たり、多大なるお力添えをいただきました関係各位に対し、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

本校で学ぶ生徒の皆さんは、今までそれぞれの中学校で培ってきた輝かしい実績と伝統を礎に、「個性の花咲く大和中」というキャッチフレーズの下、

知性を磨き、心身を鍛え、未来の扉を開く創造性豊かな人間として成長していただきたいと、心から願っております。

保護者・地域の皆様におかれましては、地域に根ざした本校の魅力ある学校づくりに対しまして、温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、校長先生をはじめ教職員の方々におかれましては、学校を新しく創り上げていくことは大変ご苦労の多いこととは存じますが、皆さんの熱い情熱と英知を結集して、一人一人が持てる力量を存分に発揮していただきたいと思っております。そして、地域に信頼される学校を築き、保護者や地域の皆様はもとより、村民から寄せられる多くの期待に応えていただきたいと思っております。

最後になりましたが、本校生徒の健やかなる成長ならびに、新しい伝統、校風づくりのために、校長先生・教職員、保護者・地域の皆様をはじめ関係各位のこれまで同様のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方の今後ますますのご健勝をお祈り申し上げます、ごあいさついたします。

大和中学校開校までのあゆみ

平成15年3月12日	村議会にて中学校統合に関する最初の一般質問
平成17年9月22日	村議会にて中学校を2校に統合する案についての一般質問
平成18年5月1日	教育委員会事務局内に学校規模見直内部検討会を設置
平成19年3月20日	学校統合審議会条例を制定
6月12日	学校統合検討推進本部規約を制定
6月20日	学校統合審議会を開催（～9月28日）
10月5日	村議会に学校統合に係る調査特別委員会を設置
平成20年1月10日	学校統合審議会が村へ意見書を提出
平成21年2月17日	学校統合に係る集落説明会を開催（～1月24日）
4月30日	学校統合に係る保護者説明会を開催（～2月20日）
6月25日	学校統合に係る集落説明会を開催（～5月19日）
8月4日	村議会にて中学校統合に関する議案を可決
11月20日	村議会にて湯湾釜分校の統合に関する議案を否決
平成22年8月4日	教育委員会事務局内に中学校統合準備検討委員会を設置
11月20日	新設中学校の校名を大和中学校と決定
11月25日	校訓を「向学 敬愛 鍛錬」と決定
平成23年2月21日	キャッチフレーズを「個性の花咲く 大和中」と決定
4月5日	校歌・校章を決定
	村内中学校の開校式を開催（～3月25日）
	新設大和中学校開校式を開催

大和中学校校歌

作詞 南 英一
作曲 はまだ ゆかり

1 山なみ晴れて さわやかに

朝の陽白う 文の窓

あゝ今ここに 向学の

希望に満ちて 集いつつ

豊かな叡智 磨きあう

大和中学 伸びゆくわれら

2 寄せ来る波頭 はつらつと

黒潮めぐる 青い海

あゝ今ここに 誠実の

調べも高く 奏でつつ

心身共に 鍛えあう

大和中学 伸びゆくわれら

3 光りはあふれ とこなつの

奄美の大地 香る風

あゝ今ここに 友情の

きずなも固く 結びつつ

輝く未来 拓きあう

大和中学 伸びゆくわれら

【校訓】

向学 敬愛 鍛錬

【キャッチフレーズ（合い言葉）】

個性の花咲く

大和中

地域に開かれた学校作り

大和村立大和中学校校長 西村 禎文



新設大和中学校の開校に当たり、大和中学校長としてご挨拶をさせていただきます。

今回の新設大和中学校の開校までに「学校統合準備検討委員会」を立ち上げ、より良い学校作りのために尽力をくださいました村当局・村教育委員会・各種委員会の皆様方の御支援または御指導を賜り感謝しているところでございます。

村内の五つの中学校を統合したことにより、子ども同士の切磋琢磨する機会が増し、人間関係や交友関係が広がり、豊かで健やかな心の成長や多様な見方や考え方の交換が行われるなど、中学生の多感な時期には、集団の中で学び合うことが、とても重要であると考え、新設大和中学校ではこのことを積極的に推進していきたいと思っております。

校訓につきましては、大和村民憲章の意義を踏まえ、将来の大和村の担い手としての成長を願い、「向学」「敬愛」「鍛錬」を設定しました。

「向学」とは、基礎・基本を確実に身につける生徒、真理を追究し、学び続ける生徒、志を持ち、志の実現に向けて努力する生徒。

「敬愛」とは、感謝の心を持ち、奉仕する生徒、思いやりがあり、友を認める生徒、誠実で、責任を持って行動する生徒。

「鍛錬」とは、健康で明るく、勤労を愛する生徒、ねばり強くやりぬく生徒、目標を持って体力作りに励む生徒。

「学び合う私たち」、「認め合う私たち」、「鍛え合う私たち」として、充実した学校生活が送れるように指導をしていきます。

キャッチフレーズは【個性の花咲く大和中】として、生徒一人一人の個性が満開になるように努力していきたいと思っております。

また、学校教育目標には、「自ら学ぶ意欲をもち、真理を追究し、心豊かにたくましく、最後までやりぬく生徒を育成する」を設定しました。

「学問を修養すること」においては、やはり、人から強制されて学問をするのではなく、自ら進んで学ぶという、基本姿勢に重きを置くこと。

「真理の追究」とは、物事を進めるに当たり「何が正しく何が間違いであるか」という学問のもつ究極的な問いであるものの追究。

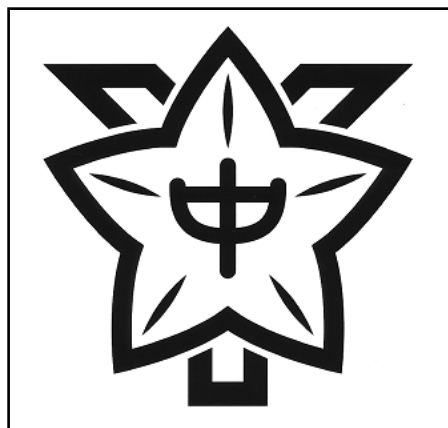
心身ともに健康で、自分が立てた目標をやり抜く、初志貫徹の精神を持った生徒の育成。

新設大和中学校では、通学区域が広範囲になり、距離的には広がりますが、学校と家庭・地域とのつながりは、今まで以上に深い信頼関係を築いていかなければならないと考えています。

生徒たちを見守る確かな目で、学校と家庭・地域間におけるお互いの情報を双方向から共有し合える事を強く望んでいます。よろしくお願いします。

結びに、新設大和中学校の教育活動に対して、今までの五つの中学校へお寄せいただきました深い学校愛と同様にして、今後とも大和村民の中学校として、地域に信頼され、地域に開かれた学校作りに努めていきますので、何とぞ深い御協力と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

【校章】



大和中学校と周囲の自然・風土をイメージし、大和村の花・タイワンヤマツツジと大和村の頭文字「Y」をモチーフにしてデザインしました。豊かな自然に抱かれた環境の中で、将来の夢や明るい希望に向かってたくましく成長する生徒と学校の姿をシンプルに力強く表現しています。

作製者 中本竹識

2年 政村 玲於奈（湯湾釜）

大和村の五つの学校が一つになり人数が増えて、学校がとてにぎやかになりました。人数が増えることによってどんな感じなんだろうと最初は不安もありましたが、クラスメイトが4人増え、学校生活が大きく変わったわけではなく、友達が増えて毎日とても楽しく過ごせています。



1年 前田 凌太郎（大柵）

統合された大和中での生活で感じることは、人数が増えたので発表するときはとても緊張するけど昼休みなどは、いつも少人数でしていた遊びも大人数でできるのでとても楽しいです。授業では、いろいろな考えや意見があってとても勉強になります。



芽吹く頃 大和の力集まって
開花に向かって 一致団結

2年 堀 美南（大柵）



VOICE

新設大和中へ期待の声

2年 勝 朝美（名音）

大和中中学校での生活はとても楽しいです。昨年度に比べると人数も増え、授業に活気があり、一人の時より楽しいです。最初の頃はとまどいもあったけれど、充実した学校生活を送れています。



大和中中学校 共に学ぶ 共に創る

3年 氏家 香奈（今里）

最初は授業についていけるかどうかや、他の集落の子と仲良くなれるかが心配でした。でも今は学校にも慣れ、生徒会活動も充実していてやりがいを感じています。また、授業では自分とは違う考え方や意見が出て、いろいろな考え方ができるので統合してよかったなと思います。休み時間や昼休みは、友達と遊んだり、話したりするのがとても楽しいです。



3年 中 あかり（国直） 生徒会長

大和中が統合して2カ月がたちました。最初はいろいろな不安でいっぱいでした。でも、今では勉強、部活、生徒会も成り立って、新大和中を立ち上げています。また、学年など関係なくみんな楽しく過ごしています。地域の人たちや学校 みんなが統合してよかったと思えるような学校にしていきたいです。



大和中 服はちがえど みなひとつ
教室ちがえど 心はひとつ

2年 神田 佑八（大和浜）



P T A 会長 神田 雄一（大和浜）

新設大和中では、日頃から勉強だけでなく礼儀や道徳心、また他人に対する思いやりなど必要なことを生徒のみなさんにしっかりと教えていただいています。この教育方針を尊重しながら、P T Aとしても、地域・保護者・学校が一体となった活動を行い、生徒のみなさんが元気に、楽しく、有意義に中学生生活を送ることができるよう協力していきたいと考えています。





校歌を合唱する17名の1年生

地域と一体の教育環境づくり

「大人数での授業についていけるだろうか。」「遠距離通学になってこれまでより30分も早起きできるだろうか。」「中学生がいなくなつて小学生は大丈夫だろうか。」

生徒の中には通い慣れた学舎を離れる寂しさから不安を口にする者も少なくなかった。

それでも、開校から2カ月が経過した頃に学校を訪ねると、生徒の顔には不安の影は微塵もなく、屈託のない笑顔で迎えてくれた。元気に遊ぶ姿は数年来の友だちのようにさえ見え、生徒同士に出身校の垣根はない。

むしろ、これからの課題は残された小学校や地域にあるのではないかと。

小学校単独となり児童数が激減した「超小規模校」の学校運営は容易なものではないだろう。

教員数が6名となつた名音小や3名の今里小においては教職員の過重な負担が懸念される。また、運動会を始めとする地域行事は集落の協力無くして実施は難しい。これからは、なお一層地域と一体となつた教育環境づくりが求められるのではないかと。

また、空き教室の福祉・文化活動や防災拠点としての利用を要望する声も根強く、学校・教育委員会・地域の人が知恵を出し合い施設を有効に活用してほしい。

大和村は全十一集落の小さな村だが、地理的条件から各集落の気質が様々で、各学校の校風も異なる。

先の開校式における生徒代表あいさつで、中山恵さん（3年）は「閉校したそれぞれの学校の伝統や文化を引き継ぎ、新しい大和中学校でも新しい伝統を根付かせ、個性の花咲く学校にしたい」と抱負を述べた。

現在、移行期間として2、3年生には旧中学の制服や体育服の着用を認めている。それぞれのセーラー服を着用する女子生徒のように、出身校ごとに気質や個性は異なるだろう。しかし、46名の子ども達が、お互いを尊重しあい、切磋琢磨する中で新たな大和中の伝統や校風を作り出してほしい。

そして村内唯一の中学校として「大和」の名に誇りを持ち、勉学やスポーツ、各方面で活躍することを期待したい。



「元気な大和村・住んでみたい大和村」をめざして

平成23年度

村政に対する所信

（3月4日村議会からの全文掲載）

本日ここに、平成23年度の予算並びに諸議案をご審議いただくにあたり、村政に対する所信を明らかにするとともに、主要施策と予算の概要を申し上げます。一般会計並びに各特別会計予算の提案理由とさせて頂きますので、議会並びに村民各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まず、本村を取り巻く財政状況について申し上げます。

本村の財政運営に大きな影響を与える国の予算は「成長と雇用の実現、デフレ脱却への道筋」、「国民の生活を第一に」、「確固たる戦略に基づく予算編成」の理念の下、「新成長戦略」を着実に推進すると共に、「財政運営戦略・中期財政フレーム」に定めた財政規律の下に、成長と雇用拡大を実現するとの基本的考え方により編成されています。

その結果、平成23年度の国の一般会計予算の規模は、92兆4,116億円、対前年度比0.1%の増額予算となっております。

平成23年度の地方財政は、企業収益の回復等により、地方税収入や地方交付税の原資となる国税収入が増加する一方、社会保障関係費の自然増や公債費が高い水準で推移すること等により、定員純減や人事委員会勧告等の反映に伴い給与関係経費が大幅に減少してもなお、依然として大幅な財源不足が生じることが見込まれるところとなっております。

鹿児島県においては、非常事態ともいふべき危機的な財政状況を踏まえ、平成17年3月に策定した「県政刷新大綱」に基づき、財源不足額の縮小に努めてきましたが、依然として多額の財源不足が生じている現状であります。

このような状況を踏まえ、大綱の趣旨を踏まえた行財政構造改革に引き続き取り組みむとともに、これまでの取り組みから更に踏み込んだ、歳入・歳出両面にわたる徹底した見直しを行う必要があるとしております。

それでは、平成23年度、本村の行財政運営の基本方針について申し上げます。

本村は、県同様に厳しい財政状況ではありますが、これまで、「自然と共生し、安心して住みよい村づくり」を基本理念とした、「大和村第四次後期総合振興計画」や各種計画を参考に、諸施策を推進して参りました。

しかし、90%以上を依存財源に頼らなければならぬ状況下であるため、構造的な財源不足は続くものと考えられますので、予算編成においては、国の地方財政対策についての確に判断していく必要があります。

村においては、これまで国の緊急経済対策による交付金等により、雇用・経済対策等が図られてきました。また、地方交付税もここ2、3年は増加傾向にあります。今後の見直しは不透明な状況であります。

平成23年度の財政状況は、国庫支出金の増額は見込まれるものの、地方交付税の減額、県支出金の減額が見込まれるなど、依然として本村の財政運営は厳しい状況にあります。

このように限られた財源のなかで行政サービスを維持しつつ、村民の福祉の向上を図ることを理念に、効率的な行政を進めるため

(1) 行財政改革の推進による健全財政の確立

(2) 定住促進、産業の振興による地域の活性化

(3) 少子高齢化に対応した地域の推進

(4) 道路交通網、情報通信網、生活環境の整備促進

(5) 人材育成・社会教育・学校教育環境の整備推進

(6) 自然と共生し、生き生き、安心、安全な住みよいむらづくり

以上、6つの基本方針を定め予算編成を行うことと併せて雇用対策にも積極的な取り組みを行いました。

次に、予算の概要について申し上げます。

一般会計の予算総額は、前年度当初対比で11.3%、2億7,419万6千円増の、26億8,974万6千円となりました。

主な内容として、歳入におきましては、地方交付税、県支出金は減額を見込んでいますが、国庫支出金等の増額により、歳入総額は増額となりました。

歳出におきましては、道路、漁港の整備、災害復旧事業等を含む投資的経費に6億5,138万1千円を計上いたしました。

また、村民に身近な生活基盤の整備や扶助費等については財政上可能な限り取り入れる一方、経常経費の抑制に努め、財源の効率的な配分に努めました。

次に基本方針実現のための主要施策について申し上げます。



厳しい時代だからこそ村民が一同に力を合わせ、「元気な大和村・住んでみたい大和村」を目指して頑張っていきます。 大和村長 伊集院 幼

(1) 行財政改革の推進による健全財政の確立

ここ数年の起債の繰上償還の実施等により、公債費は減少が見込まれるものの、道路・漁港等の継続事業や少子高齢化対策、各特別会計への繰出金、計画中の中部地区集落排水事業の実施など、今後も財政状況は厳しさが続くものと予想されます。

このため、引き続き行財政改革を推進し、行政事務全般における見直しを行うとともに、財政構造の弾力性を示す経常収支比率をはじめとする財政指標の改善を図るべく、財政健全化計画等に基づき、歳入歳出の徹底した見直しを図り、健全財政の確立に努力いたします。

次に歳入についてありますが、村

税の適正課税と収納率の向上による自主財源の確保に努めると共に、事業の推進にあたっては、国・県の動向を注視しながら、補助事業を優先するほか、村債についても辺地債や過疎債など、できるだけ有利な起債を導入し後年度負担の抑制に努めます。

歳出については、経費の節減合理化を図り、消費的経費の抑制に努め、特に人件費については、定員適正化計画を基本に抑制に努めます。

また、行政事務については電算システム等の有効活用を図るとともに、広報やまとや防災行政無線等による広報活動、ホームページの充実等を図り情報を発信して参ります。

(2) 定住促進、産業の振興による地域の活性化

定住促進施策につきましては

① 高校生通学バスの全額助成をはじめ、出産祝金、育児助成金、新築住宅助成金等の交付を引き続き行うと共に、公営住宅の建設、空き家対策に取り組む等、定住促進対策を推進して参ります。

② 村全域の里親助成制度についての周知に努めます。

る助成、肥料高騰対策として肥料購入に対する助成や、バーク原料の確保を行い、果樹、野菜園芸等の生産拡大の支援を行うと共に、苗木購入助成等についても引き続き実施致します。

また、鳥獣被害対策として、カラス捕獲事業も継続して実施いたします。

② 地場消費の拡大や産地育成を図るとともに、「産地消」を推進し本村の農業振興に努め、

奄美プラム（すもも）



産業振興に

おいて、農業の振興につきましては

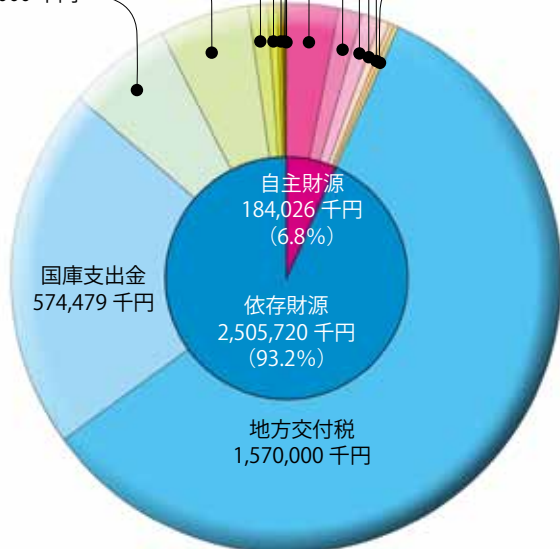
① 主要作物である、スモモ・タンカン・インゲン等については、土づくりのため、引き続きフレコン堆肥購入に対す

③ 農業・農村活性化推進施設等整備事業による集団営農施設マンゴーハウス事業導入を実施し、新たな果樹生産の拡大を図ります。また、農作業受託班に助成を行い農家の作業の省力化に対応いたします。

併せて産業振興や地域活性化のため、名瀬中央青果市場への集出荷委託事業を引き続き実施いたします。

平成 23 年度一般会計度歳入予算内訳

その他 899 千円
 地方特例交付金 4,000 千円
 自動車取得税交付金 5,322 千円
 地方消費税交付金 13,029 千円
 地方譲与税 30,753 千円
 県支出金 146,238 千円
 村債 161,000 千円
 村税 84,007 千円
 使用料及び手数料 37,990 千円
 諸収入 34,034 千円
 財産収入 11,540 千円
 繰越金 10,000 千円
 その他 6,455 千円



歳入合計 2,689,746 千円

自主財源 依存財源

村税など村が独自に調達するお金
国や県から村に入るお金

村税

住民税や固定資産税などのお金

使用料

施設の利用料などのお金

諸収入

預金利子など

財産収入

財産の貸し付けや売却による収入

繰越金

前年度から持ち越したお金

地方交付税

村の状況に応じて国から貰うお金

国庫支出金

事業を行うために国から貰うお金

県支出金

事業を行うために県から貰うお金

村債

村が借り入れたお金

地方譲与税

国から配分されるお金

各種交付金

国から配分されるお金

一般会計歳入

歳入の中心を占める地方交付税が 8 千万円の減額ですが、昨年の豪雨災害復旧事業に係る事業などにより国庫支出金が 4 億 2 千 6 6 0 万 6 千円の増額となり、自主財源は基金繰り入れや諸収入の増額により 3 百万円の増額となりました。予算規模の増加により自主財源比率は 0.7% の減少となりました。

- ① オニヒトデ駆除対策事業を導入し水産業の振興につきます。
- ② 松くい虫防除事業を引き続き実施致します。
- ③ 今年度本村で開催される群島植樹祭において、サクラ、スモモ等を植栽し、美しい森林づくりを推進して参ります。
- ④ 遊休農地等の有効活用対策の一環として、農家台帳の整備を行い、農地流動化を推進いたします。
- ⑤ 耕作放棄地対策の一環として、村単独の耕作放棄地解消対策助成を行い、耕作放棄地の解消に努めます。
- ⑥ 農地・水・農村環境保全向上活動事業を導入し、地域住民、関係団体等の協力により農業用施設の維持管理を、地域ぐるみで効果的な共同作業を行うための支援をいたします。
- ⑦ トップセールスマンとして村外へ村の特産品等の PR 活動に引き続き積極的に取り組むと共に、ふるさと雇用再生特別基金事業等を活用して、大和村ブランド創造開発事業で建設した加工施設を効果的に利用し、特産品の製造販売等の促進を図り産業の振興に努めます。
- ⑧ 昨年の豪雨災害で被災した農地被害等に対する支援に引き続き取り組んで参ります。
- ① 農林作物に被害を及ぼしている、イノシシ等の有害鳥獣捕獲事業を引き続き実施いたします。
- ② 奄美フォレストポリスの公園管理については、指定管理者の経営改善、経費の節減、雇用の確保、利用者のサービス向上に努めます。
- ③ 奄美フォレストポリスの公園管理については、指定管理者の経営改善、経費の節減、雇用の確保、利用者のサービス向上に努めます。
- ④ アマミノクロウサギ等の希少野生生物の保護意識の普及啓発に努めると共に、奄美の観光地づくり事業等の導入を推進し村の PR を図ります。
- ⑤ 村内でのスポーツイベント等については、協力体制を充実し積極的に誘致活動に取り組めます。
- ① 村内の商店は、村外消費の増加などにより厳しい経営状況にあるため、奄美商工会へ助成を行い、商工会による経営改善普及指導等を推進します。
- ② 青年団主催のひらとみ祭りについては、引き続き経費の助成と開催準備の支援を行います。
- ③ 奄美フォレストポリスの公園管理については、指定管理者の経営改善、経費の節減、雇用の確保、利用者のサービス向上に努めます。
- ④ ふるさと雇用再生特別基金事業を活用し、漁業従事者のサービス向上を図ります。
- ⑤ 今里漁港漁村再生交付金事業により、港内静穏度を高めるために、防波堤改良を行います。
- ⑥ 離島漁業再生支援交付金・推進事業を継続実施し、漁場生産力の向上、海域環境の保全・国境監視等、多面的機能の維持増進を図ります。
- ⑦ 漁場の保全を図ります。また、浮き魚礁設置経費の助成を行い水産業の振興に努めます。

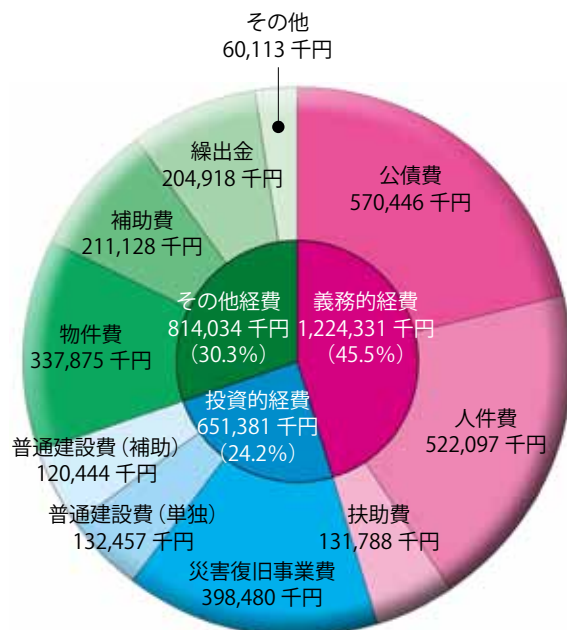
義務的経費 任意に削除できない経費
投資的経費 支出の効果が将来に残る経費
その他経費 義務的経費と投資的経費以外の経費

公債費 借金の返済のための経費
人件費 職員給与や議員報酬など
扶助費 法律に基づく福祉的経費
単独普通建設 村が単独で行う投資的経費
補助普通建設 国からの補助を受けて行う投資的経費
災害復旧事業費 災害の復旧に要する経費
物件費 消耗品などの消費的経費
補助費 各種団体へ負担や補助する経費
繰出金 特別会計へ払い出す経費

一般会計歳入

義務的経費においては公債費が昨年の新規発行地方債の抑制や繰上償還の実施により3千4百14万5千円の減額となり、投資的経費は普通建設事業が減少しましたが昨年の豪雨災害による災害復旧事業費の増額により2億6百91万8千円の増額になりました。物件費はふるさと雇用再生特別基金事業や特産品PR費などにより4千5百30万6千円の増額となりました。

平成23年度一般会計度歳出予算内訳



歳出合計 2,689,746 千円

(3) 少子高齢化に対応した地域の推進

子どもを生み育てやすい社会環境の整備、高齢者をはじめとした、すべての村民が安心して、生きがいのある生活を送るには、健康が大切であります。

そのために、少子化対策や村民の健康管理の支援を行います。

① 少子化対策は重要な課題であります。引き続き延長保育や土曜保育を実施すると共に、村単独の育児助成金を支給するなど子育て支援を充実します。

② 中学校卒業時までの医療費無料化を引き続き実施し、子育て支援を充実します。

③ 診療所をはじめ県や健康づくりリーダーなど関係機関と連携して、保健予防事業による各種検診率の向上を図るとともに、健康教育及び訪問指導の強化や個人レベルでの健康づくりの意識の高揚と、健康増進をサポートできる環境づくりに努めます。

⑤ 在宅ねたきり老人等を介護している方への介護手当を引き続き実施し、在宅福祉の充実を図ります。

⑥ 介護支援事業所・国保・大和診療所と連携を密にしながら、訪問指導や健康相談等を充実し、個々の健康意識を高め医療費の抑制に努めます。

また、社会福祉協議会と連携しながら、ふるさと雇用再生特別基金事業を活用し、高齢者等の安心・安全な生活支援、在宅訪問サービス等の充実に努めます。

⑦ 老人クラブへ育成補助及び各種大会の参加援助を行い、高齢者の社会参加を支援いたします。

⑧ 大和の園については、地域に信頼される施設として、入所者が受けたい介護福祉サービスの提供を行い、入所者が安心・安全な園生活が送れるための施設改善や健全な運営に努めます。

④ 介護保険制度は、介護給付費の約65%を施設介護利用者、占め保険者負担の増となっている状況にあります。包括支援センターを中心に、在宅福祉の充実を図ると共に、高齢者運動機能向上対策事業を強化し、介護予防を積極的に推進していきます。



八月踊り (H22.9.19 大棚集落)

⑨ 長寿社会づくりソフト事業を導入地域福祉計画を策定し、して地域支え合いという住民主体の地域福祉の推進に努めます。

⑩ 精神保健事業・住民生活に光をそそぐ交付金等を導入し、障害者等の行き場づくり支援等を行います。

(4) 道路交通網、情報通信網、生活環境の整備促進

生活の基盤である道路交通網や防災行政に必要な不可欠な情報通信体系、集落内の生活環境の整備等については、本村の活性化に最も重要な社会基盤であるため、更に整備の促進を図ります。

道路交通網については

① 本村の農業拠点である福元地区や奄美フォレストボリスへのアクセス道路である、村道大棚名音線改良事業を継続実施し早期完成を目指します。

② 村道等の除草や路面補修等を行い、村道等の維持補修に努めます。

③ 主要地方道・名瀬瀬戸内線は、救急搬送や通勤通学に村民の生活路線として重要な路線でありますので、トンネルの整備など、大和・名瀬間のフラット化を目指した取り組みを引き続き行つてまいります。

④ 昨年の豪雨災害で被災した道路等の公共土木施設等の早期復旧を図って参ります。

情報通信体系については

① 2011年のテレビの地上波デジタル放送移行に伴う、中継局整備及び共同受信施設の整備について、関係機関と連携し対応してまいります。

② 防災行政無線施設のデジタル化整備に併せて村の防災情報やエリアメールの配信を行うと共に、携帯電話の不感区域の解消について関係機関と連携

し対応するなど、防災行政の向上に努めます。

③ 大規模災害時等の情報通信手段の確保対策の一つとして衛星携帯電話の導入を図ります。

④ あまみFMディと協力し、村内でもコミュニティFM放送が受信できるように国・県への要望活動や施設整備等に取り組んで参ります。

生活環境の整備については

① 環境保全の観点から、生活排水対策として西部地区の農業集落排水事業の加入促進に努めるとともに、中部地区の事業の早期実施に向けて努力して参ります。

② 新聞紙や雑誌等の古紙類の分別収集を行い、資源ごみリサイクルの促進を図り、ごみの減量化に努めます。また、環境保全の面から関係機関と連携

し、車輛の放置防止やごみの不法投棄防止に努めます。

③ ヤンバルトサカヤステは、住民に不快感を与え生活上、大きな問題であります。引き続き一部有料により駆除用薬品を配布し駆除に努めます。

④ 海岸漂着物の回収・処理を実施することで海岸環境の保全を図り、併せて地域雇用対策に取り組んで参ります。

平成23年度の主な事業

歳出科目	事業の内容	事業費	前年比
総務費	高校生の通学バス賃補助	18,720	- 120
	農林水産物販売促進等の委託	12,000	新規
	庁舎警備や事務員の雇用	7,741	- 11,079
	図書整備や障害者の支援	6,025	新規
	特産品の成分分析など	2,606	新規
	里親引き受け世帯への助成	1,800	同額
民生費	子ども手当の支給	24,192	+1,162
	敬老年金の支給	8,650	+394
	地域福祉計画の策定	4,462	新規
	育児助成金の支給	4,200	同額
	高齢者バス賃の補助	3,000	同額
	在宅寝たきり高齢者介護手当の支給	1,440	- 1,080
衛生費	海岸の清掃	2,513	新規
	子どもの医療費助成	1,715	- 144
農林水産事業費	今里漁港の整備	42,900	- 97,300
	松食い虫の防除	12,748	+1
	共同選果場建設の負担金	10,145	新規
	マンゴーハウス整備の助成	8,994	7,590
	モノレールや防護策の整備	7,170	2,170
	まほろば漁業集落への補助	3,670	+4
商工費	青果市場代行便の運行	1,630	+300
	フレコン堆肥購入の助成	2,100	+256
	ひらとみ祭りへの補助	1,500	同額
土木費	村道大棚名音線の改良工事	91,400	- 8,782
	公営住宅の建設	73,444	新規
教育費	橋梁点検長寿命化計画の策定	4,100	+100
	大和中スクールバスの運行	6,300	新規
	河川や村道の災害復旧工事	337,870	新規
災害復旧費	林道の災害復旧工事	60,610	新規
	借金の返済	570,446	- 34,145



ムチモレ踊り (H22.11.21 湯湾釜集落)

(5) 人材育成、社会教育、学校教育環境の整備推進

「村づくりの基本は、人づくりから」を基本に、教育環境の整備や人間性豊かな人づくりに努めて参ります。

① 公民館においては、いつでも自由に生涯学習の機会が選択できるように、公民館講座を引き続き開講し、村民に親しまれるような公民館づくりに努めます。

② 子どもたちに好評である「大和つ子スクール」を引き続き実施し、児童・生徒の体験活動を支援するとともに青少年健全育成を推進します。

③ 村民が参加できるスポーツ等のイベントを継続実施し、村民の健康増進に努めます。

奄美タンカン



④ 新設大和中学校が開校することに伴い、スクールバスの運行、校舎の耐震補強を実施するなど、村の将来を担う子どもたちの教育環境の充実を推進して参ります。

⑤ 学力対策
協議会への助成を引き続き行い、基礎学力の確実な定着や教職員の資質向上、児童生徒の体験活動による、生きる力の育成、確かな学力の向上に努めます。

また、小学校において外国語教育が必修化されることに伴い、引き続きALTを配置いたします。

(6) 自然と共生し、生き生き、安心、安全な住みよい村づくり

① 奄美野生生物保護センターや奄美自然体験活動推進協議会等と連携し、自然保護思想の普及啓発に努めます。

② 鹿児島・沖縄両県をはじめ群島内各市町村と連携して、奄美群島の世界自然遺産への早期登録を目指した取組を行い

ます。

③ 本村の基本理念として、自然と共生した住環境や産業振興を進め、村民が将来においても、住みやすく安心して暮らしながら、大和村に誇りと希望を持ち、村民が主役となる地域づくりを進めて参ります。

④ 災害から村民の生命・財産を守り、安心して安全に暮らしていけるように、昨年の豪雨災害を教訓として大和村地

域防災計画の見直し等を行い、災害に強い村づくりに努めます。

以上、村政の基本方針と主要施策の概要を申し上げます。

平成23年度も厳しい財政ではありますが、これを効率的に執行することで、所期の目的を達成し、本村の飛躍の年となるように、全職員一丸となつて努力し、村民とともに夢を持ち、自然にやさしい、明るく心豊かなまほろば大和の創造を目指したいと考えております。

今後とも、村政運営に全身全霊を傾けて取り組んでまいりますので、村議会並びに村民の皆様のさらなるご支援



ひらとみ祭り (H22.8.28 思勝港)

収穫目前の台風にスモモ農家呆然



季節はずれの台風2号

5月28日深夜から29日早朝にかけて接近した台風2号は、奄美群島全域を暴風域に巻き込み東シナ海を北上。大和村に強烈なケーシカジ（台風通過後に吹く南西方向からの吹き返しの風）を見舞い、収穫目前のスモモに大打撃を与えた。

スモモは6月中旬までに収穫を終えるため台風常襲地帯の奄美大島にあつて被害を受けにくい作物と言われてきた。しかし、今年は春先の低温の影響から成熟が遅れ、6月初旬から収穫を始めようとする矢先、最悪のタイミングでの台風襲来だった。

28日夜には、「本当に台風は来るのか？」と疑うほど風がやみ静寂に包まれていたが、深夜2時頃から轟音と共に突風が吹き始め、海水を巻き上げるシュウベ（潮風）となって木々を揺さぶった。

翌朝行われた村による災害調査では、幸いにして民家や公共施設の被害はほとんど無かったが、スモモの落果被害は最悪な状況で全体の7割近い実が落下していた。

スモモは開花後に「摘果」と呼ばれる果実を肥大化するための間引き作業

を行う。これは大変な時間と労力を要する作業だが、皮肉なことに徹底的に摘果し、大きな実を着けた木ほど被害は甚大だった。実が己の重さに絶えきれず強風で落下したのだ。

上記の写真は赤井重和さん（思勝・59才）が長溝地区に所有するスモモ畑。29日早朝に畑を訪ねると、ほんのり色付き始めたスモモが畑一面に転がっており、まるで収穫した実を撒き散らしたかの有様だった。どれも3L以上の大玉ばかりで赤井さんの徹底した摘果ぶりが見て取れた。しかし、残念ながら9割以上が落下しており樹上にはほとんど残っていないかった。

また、強風に絶え落下の難を逃れた木々にも異変が発生した。シュウベ（潮風）による塩害だった。

28日の深夜以降まとまった雨がなく、潮風にさらされた葉は茶色く変色し落葉。残った実も生育不良に陥った。紅色に熟した実も例年とは若干風味が異なり、園地によつてはスモモ特有の酸味のない「水っぽい」実が見受けられた。収穫を目の前にして一年間の苦労がたった3時間の風で水泡に消えた農家の落胆は計り知れない。

村産業振興課では当初、収穫量を昨年以上の100〜120トンと見込んでいたが、調査結果を受け30トン程度と下方修正。来年度以降の樹勢回復にむけて剪定や施肥、暴風対策を呼びかけている。



「東北の被災者のことを思えば・・・。」

ベテラン農家の気概

奥田清之助さん（大棚・79才）は古くからスモモ生産に携わるベテランの農家だ。大棚と毛陣地区に150本のスモモ木を栽培しているが、大玉ばかりを出荷すると評判が高く、口コミでの注文が絶えないという。

昨年、大和村果樹振興会から、大玉出荷割合が高い農家に送られる、優良農家・大玉の部で表彰を受けた。

ご本人は、「個人注文がばかりで農協さんには肥料代程度しか出荷してないよ。」と謙遜するが、それでも農協での大玉（3L以上）率は20%を超えているという。

大玉を栽培するコツをお伺いすると、大玉系統の木を接ぎ木で増やすこと、10～20年の成木が中心になるよう順次改植を行うこと、摘果は1本につき3回以上行うこと、などという答えが返ってきた。

興味深かったのは「あまり花は咲かない方がよい。」との言葉。「それなら、今年の摘果はさぞ大変だったでしょう」と尋ねると、それでも家族総出で摘果し例年以上の出来たとのこと。



台風被害の全容が明らかになった頃奥田さん宅を訪ねた。「どれほどショックだろうか」と思いながら清之助さんに畑の様子を伺うと、無念さの中にも意外とサバサバした表情だった。

奥さんのウタ子さん（77才）によると、台風の翌朝は壊滅的な畑の状況にひどく落胆した様子だったという。しかし、「スモモは全部落ちてしまったけど、東北震災の被災者のことを思うえば落ち込んでなんかいられない。」そう気持ちを切り替え畑に向かっていくという。

困難な状況のなかでも前向きな姿勢にベテラン農家の気概を感じた。

希望にワクワク胸膨らむ

13名の新入生が入学

4月6日、大和、大柵、今里の3小学校で入学式があり、14名の新入生が入学しました。毎日元気に登校していますので、地域のみなさんの温かい見守りと優しい声掛けをお願いします。



大和小学校
農原弘久校長
宮本心満さん
宮本聖平さん
宮本心満さん
宮本聖平さん
宮本心満さん
宮本聖平さん
宮本心満さん
宮本聖平さん
宮本心満さん
宮本聖平さん
宮本心満さん
宮本聖平さん



大柵小学校
霧島一浩校長
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん
奥平晃二さん



今里小学校
名音小学校
井上正美校長
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん
川畑雅彦さん

継続的な環境学習と保護活動が高く評価

大和小学校が環境省表彰

5月15日、ヒルトン東京（東京都新宿区）において、常陸宮殿下、同妃殿下ご臨席の下に「全国野鳥保護のつどい」が開催され、本村の大和小学校（農原弘久校長）が環境省自然環境局長賞に表彰された。

大和小は平成17年から総合的な学習の時間を利用し、5年生は「守ろう在来種」、6年生は「奄美大島の水を守ろう」をテーマに地域の環境学習を実施。大和川水系三田川の深淵、通称「サンダゴモリ」に異常繁殖した特定外来種のウォーターレタス（和名ボタンウキクサ・以下「Wレタス」）の除去活動に取り組んできた。

Wレタスはアフリカ原産の浮遊性の常緑多年草で、異常繁殖により水流の阻害や太陽光の遮断など、川の水質を著しく悪化させる。数年前から大和川水系での生育が確認され、特に夏場のサンダゴモリでは水面を覆い尽くす程繁殖し生態系への影響が懸念されていた。

大和小では、隣接する環境省野生生物保護センターの職員を講師として招き、外来生物が環境に及ぼす影響や大和川の生態系について学習し、Wレタスの駆除を実践してきた。

ウォーターレタス除去作業の様子（H22.9.23 サンダゴモリ）



1回の除去作業で農業用コンテナの100箱以上の大量のWレタスを除去したというが、翌年には除去前の状況に復元し児童達を落胆させたという。それでも児童達は毎年作業を継続し、Wレタスを除去し続け、その実績が高く評価され今回の表彰に至った。

児童を指導した山田克美教諭は「今回の受賞により、子ども達が自らの活動に自信を持ってほしい。そして郷土の自然に誇りをもってほしい」と語った。



泉有智教育長

教育長に泉有智氏選任

ありとも

4月1日、村教育委員会は臨時会において、元大和村総務企画課長の泉有智氏を全会一致で選任した。

泉氏は本村思勝出身の60才。武蔵工業大学卒業後、昭和54年に大和村役場へ入庁。今年三月に定年退職するまでの三年間を総務企画課長として村政運営に携わった他、職務のほとんどを建設畑で勤めたあげた根っからの「技術屋」。入庁後に建築士の資格を取得するなど努力家として知られる。

本村において教育畑以外からの教育長の選任は初めてだが、泉氏は、「行政経験を生かして学校現場と行政のパイプ役となり、地域に根ざした学校づくりを推進したい」と抱負を語る。

折しも、今年度から村内の全中学校が統合され新設大和中学校が開校する変革の年だが、教職員はもとより行政と地域住民が連携し、更なる教育環境の向上を図る。

ハッスルプレーに歓声

第52回春季ナイターソフトボール大会（大和村ソフトボール連盟主催・今井秀樹会長）が4月18日から大和中グラウンドで開催され、村内各集落から10チームが参加。多くの観客や応援団が見つめる中、10試合の熱戦を演じた。22日には決勝戦が行われ、A級は大棚Aチームが4年連続の優勝を、B級では大和浜チームがそれぞれ優勝の栄冠を勝ち取った。

なお、最優秀選手賞には大棚Aチームのエース杉島勇選手と決勝戦で完投・2本塁打と活躍した大和浜チームの川畑英作選手が選出された。



A級優勝を果たした大棚Aチーム

釣果とゴミの量を競って親睦を深める

大棚ファミリィ釣り大会

5月8日、大棚集落で第18回ファミリィ釣り大会（大棚壮年団主催・直崎武志団長）が開催され21家族70名が参加。集落総出でゴールデンウィーク恒例の行事を楽しんだ。

同大会は自然とふれあいながら、家族や地域の人々と絆を深めることを目的として壮年団が開催。あわせて近年は環境保護活動の一環として釣りの合間に海岸清掃を行っている。

当日は早朝から家族ごとに思い思いの場所へ出かけ、集落前の堤防で終日のんびりを決め込む者や、大物を狙って村外の磯場へ遠征する者、中には山へ出向きタナガ（川エビ）を獲る者もいたとか。

夕方には検量場所となった大棚港に続々と獲物や大量のゴミが持ち込まれ、大小色とりどりの魚70キロと、プラスチックやペットボトル等の漂着ゴミ194kgを回収した。

釣り上げた魚は参加者全員でさばき、普段は手にすることのない生魚の感触に子ども達のはしゃぐ姿も見られた。表彰式をかねた反省会では刺身やから揚げとなった新鮮な海の幸に舌鼓を打ち、釣り談義に花を咲かせたのとこと。

全員で魚をさばく参加者



- ファミリィの部
川下吉光家（17キロ）
- クリーン作戦の部
佐多巖家（32キロ）

- 大物の部
直崎武志（ツノマル・55センチ）

- 一般の部
森田幸一郎（4.7キロ）

※他魚種の部多数

こせきの窓

人口 1,738人 (△34)
男 828人 (△4)
女 910人 (△30)
世帯 903戸 (+2)

5月1日現在
(前年同月比)

ふるさと納税ありがとうございます

山田 末廣様 (愛知県)
泉 富蔵様 (神奈川県)

賀川 輝也様 (故賀川明子様)
永田 康代様 (故鈴木ヤエ様)
井ノ上ハツエ様 (故井ノ上儀親様)
泉 保雄様 (故泉洋子様)
中里 蝶子様 (故中里オユク様)
元山 キヨ様 (故元山益雄様)

香典返し (社会福祉協議会へ)

賀川 明子様 (40歳)
里 フミ子様 (97歳)
園田 スマ様 (95歳)
福元 政弘様 (47歳)
泉 洋子様 (79歳)
中里オユク様 (93歳)
元山 益雄様 (79歳)
田河 正祥様 (55歳)

お悔やみ申し上げます

新採さん
いらっしゃい!

役場新規採用職員を紹介します

平成23年4月1日付で、8人の新人職員が採用となり各課へ配属されました。
平成11年以来実に12年ぶりの職員(行政職)の採用に役場の雰囲気も明るくなりました。まだまだ未熟な者ばかりですが行政のプロを目指して毎日奮闘中です!



氏名：勝間田 さとみ
年齢：26才
出身：千葉県富里市
配属：総務企画課
兼自然保護推進員
モットー：花よりも、花を咲かせる土となれ



氏名：勝 栄一朗
年齢：22才
出身：大和村名音
配属：総務企画課
モットー：人事を尽くして天命を待つ



氏名：三宅 友浩
年齢：34才
出身：奄美市名瀬
配属：住民税務課
モットー：可もなく不可もなく



氏名：直島 秀治
年齢：31才
出身：大和村大和浜
配属：住民税務課
モットー：押しつけない



氏名：市田 晋太郎
年齢：24才
出身：大和村思勝
配属：大島地区消防組合
モットー：福祉の心



氏名：河野 通俊
年齢：35才
出身：宮崎県宮崎市
配属：教育委員会事務局
モットー：村民の皆様のために頑張ります!



氏名：上間 蔵生
年齢：35才
出身：奄美市名瀬
配属：産業振興課
モットー：いつも笑顔で



氏名：宮田 龍
年齢：31才
出身：大和村今里
配属：保健福祉課
モットー：不屈不撓

島の宝

満1歳おめでとう

小田 勇心さん
保護者・小田 裕莉明（大和浜）
何でも口に入れる食いしんぼうさん
「ソフトボールはかまらんじー。」



おだ ゆうしん

川下 粹さん
保護者・川下 誉（大棚）
1才の誕生日に新調したお父さんとおそろいのTシャツが似合いです



かわした いなせ

南 香英良さん
保護者・南 光昭（大和浜）
とびっきりの笑顔で役場を歩き回っていました 将来は役場の受付嬢かな？



みなみ かえら

溜畑優羽梨さん
保護者・溜畑 憲吾（今里）
3人姉妹の末っ子ですがお姉ちゃんたちに負けない元気娘です



たまりばたゆうり

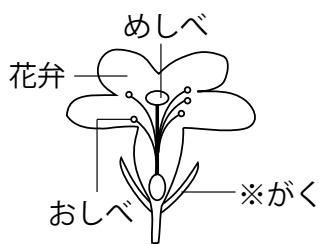
蒸し暑くジメジメした梅雨の季節。こう雨が続きと、外へ出かけるのもおっくうになりますが、少し歩くと生きもののたちのいきいきした姿を見ることが出来ます。

いきむん マンデイ vol.04

コンロンカ（アカネ科）



コンロンカはつる性の低木で、緑・白・黄の鮮やかなコントラストで林縁部を彩っています。花は星型の黄色の部分で、白い部分はがく※が変化したものです。種子島から台湾にかけて広く分布しています。



ワダツミノキ（クロタキカズラ科）



ワダツミノキは、2004年に新種とされた奄美固有の植物で、ごく限られた地域に生育しています。撮影時は、あと少しで満開か？という状況でしたが、咲き始めた花に雨露が光ってとてもきれいでした。しかし、この数日後に台風2号が直撃し、台風が去った後に見に行ってみると、花やつぼみはほとんど落ちてしまっていました。でも、こういった厳しい自然環境の中を今日まで生き抜いてきたのですから、きつと来年も純白のきれいな花を咲かせてくれることでしょう。夏の強い日差しが照り出す前に、傘を差しながらゆっくり散歩してみるのもよいものです。

自然保護推進員

【あばす】ハリセンボン

フグ目・ハリセンボン科

奄美大島近海に多く生息し、刺し網漁や夜の電灯釣り漁で捕獲されます。

一時期、港湾や浅瀬を埋め尽くすほど異常繁殖し漁業関係者や釣り人を困らせましたが現在は治まりつつあります。

古くから食用とされ、鍋や唐揚げで食され、最近では郷土料理などの飲食店においても高価で提供されます。

肉質は淡泊で歯ごたえがあり、唐揚げが最も人気です。内蔵に毒はなく、肝臓や浮き袋、エラも鍋の具材として食します。

珍品は体を覆う皮で、湯通しした後にペンチで棘を引き抜き、酢みそで食べることができます。

通常は廃棄され市場に出回ることはありませんが、コラーゲンたっぷりでプルプルとした食感是一度食べると病みつきになるおいしさです。

1本1本棘を抜くのは地道で根気のいる作業ですが、苦労をするだけの価値のある食材です。ぜひ一度お試し下さい。

なお、「ハリセンボン」の由来となっている棘の数ですが、気になって実際に計測したところ、千本もなくヒトズラハリセンボン（種名）の場合は625本しかありませんでした。

千本というのはあくまでたくさんあることの比喩表現なのでしょう。



わきや島ユムタ 第二回

ハリセンボンは危険を感じると大量の海水を飲み込み体を膨らませ、全身を覆う棘を逆立てて威嚇します（写真）。



ハリセンボンのように膨らんだ体型と、女の子が機嫌を損ね頬を膨らませた顔が似ていることから、この様な膨れっ面を「あばすずら」（ハリセンボン顔？）と呼びます。

あまり行儀の良い表情ではありませんが、小さな女の子だとユーモラスで愛嬌があり許されるでしょう。

しかし、大人の女性ではそうはいきません。奥様が機嫌を損ねあばすずらにならないようくれぐれも注意しましょう。「トトガナシ。トトガナシ。」



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接 URL を入力してアクセスしてください。
(<http://www.vill.yamato.lg.jp/i/>)

発行・編集 大和村役場総務企画課

〒 894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地
TEL 0997-57-2111 FAX 0997-57-2161
mail:info@vill.yamato.lg.jp
<http://www.vill.yamato.lg.jp>